

## 「河川砂防技術研究開発」(平成25年度採択)

### 事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
堤防及び河川構造物の総合的な点検・診断技術の実用化に関する研究開発 (研究期間：H25年～H27年)	土木研究所 佐々木 哲也	A
<b>&lt;研究概要&gt;</b> <p>堤防、樋門等のコンクリート構造物、護岸等に使用される鋼矢板の点検・診断を合理化するため、収集した変状事例を元に機能低下のメカニズムや機能低下過程を整理し、点検において着目すべき項目や変状程度の評価について検討を行った。また、物理探査等の非破壊検査技術を活用することによって、不可視箇所の点検や連続的なデータの取得が可能であるため、これらの技術の適用性についても現地調査等により検証した。</p>		
<b>&lt;事後評価コメント&gt;</b> <p>物理探査等の非破壊検査について、堤防の縦断的な土質把握や構造物周辺の空洞検知の適用条件が明らかにされた。また、樋門・樋管等のコンクリート構造物、護岸等に使用される鋼矢板について、変状の類型化や評価区分等を提案し、実務で用いられる点検要領等に活用されている。研究目的は達成され、十分な研究成果があったと言える。</p> <p>今後、河川堤防に関する物理探査等の非破壊検査について、他者の研究成果との比較・整理の上で、手法の適用条件やその限界とともに、現地での調査方法とデータの解析方法をまとめるなど、引き続き検討を進め、現場の実務に還元されることを期待する。</p>		

#### ※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い